

みんなの健康ラジオ

『婦人科の内視鏡手術』

(2026年3月5・12日放送)

横浜市産婦人科医会

(社福)親善福祉協会国際親善総合病院

地主 誠

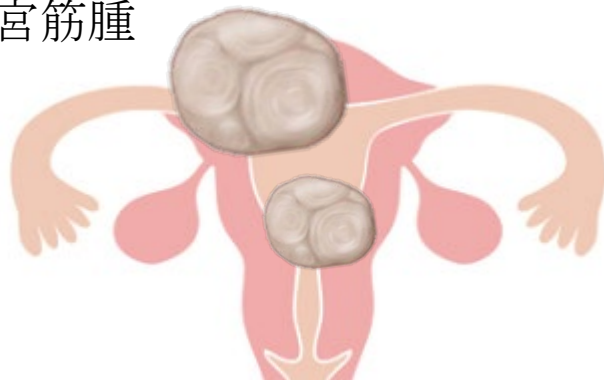
産婦人科の内視鏡手術

～産婦人科の現状～

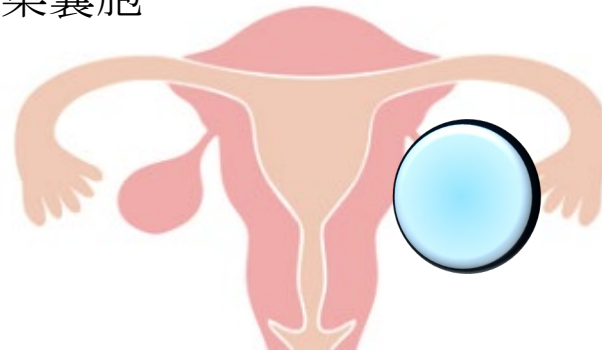
婦人科では、子宮筋腫や卵巣嚢胞など良性疾患ではあるものの、日常生活が著しく障害される疾患に出会う機会が多くあります。これらの疾患に対して、手術が必要となることも少なくありません。

これら婦人科の良性疾患は、他の疾患と比べて比較的若い年齢で発生することが多く、手術の痛み、早期退院や社会復帰、傷の整容性を気にする方が多いため、手術の方法に対して工夫が必要となります。

子宮筋腫



卵巣嚢胞



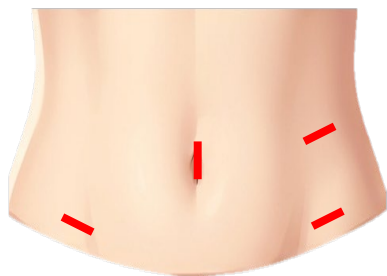
～産婦人科の内視鏡手術～

手術方法も徐々に進歩し、現在ではお腹に数mm～数cmと非常に小さな穴を数か所開け、手術を行う腹腔鏡手術が一般的になってきています。

手術の傷を更に小さくする工夫も行われ、元々開いている空間を利用して手術をすることで、手術の傷を少なくする方法もあります。

- ・子宮鏡手術：膣や子宮頸管から、子宮の中にカメラを挿入して子宮の中の手術を行う
- ・V-notes手術：膣の奥に穴を開けて、お腹の中の手術を行う

これらの狭い空間にカメラを入れて行う手術を一般的に内視鏡手術と呼び、以前までの開腹手術と比べ、傷は非常に小さくなるため、手術後の痛みは軽減し、入院期間や社会復帰までの期間も短くなり、傷も綺麗になります。



～内視鏡手術の難しさ～

内視鏡手術を行う医師は、私達が日常使っている目や手などは使えず、カメラを通した狭く、立体感のない平面画像を見ながら、鉗子という細長い棒の先端に様々な機械が付いた装置を使用して手術を行うため、非常に難しくなります。

最近ではロボットを使って手術をやり易くする方法が行われています。

ロボット手術のメリット

- ・カメラが目の様に自由に動かせて、ピントを合わせてくれる。
- ・手術機械も私たちの手の様に自由に動ける。
- ・術者が楽な体勢で手術を出来る様に、少し離れた位置で座って画面を見ながら操作が出来る。

～内視鏡手術の利点と欠点～

利点（開腹手術との比較）

- ・術後の痛みが軽い
- ・入院期間や社会復帰までの期間が短い
- ・傷の美容性が向上
- ・術後の感染症発生が低い
- ・術後の臓器癒着が少ない
- ・出血量も少ない傾向

欠点（開腹手術との比較）

- ・医師として特殊な手術機械の習得が必要となる
- ・手術機械による制約があり、手術が難しい。
- ・手術時間は長い傾向
- ・精密機械であり、故障する可能性がある。
- ・手術費用が高額となる

内視鏡手術は多くの利点や欠点もあり、希望をしても内視鏡手術が実施出来ない病院も多くあります。

～手術を行う上で重要なこと～

手術として重要なことは、可能な限り早く元の体に回復させることであり、その方法として、傷の小さな内視鏡手術が有効です。
早い回復には、手術後の対応も非常に重要です。

術後の対応

- ・術後の痛みや吐き気を予防、改善する。
- ・手術後の過剰な安静を行わず、不必要な筋力低下や消化機能低下などを起こりにくくする。。
- ・傷の整容性改善だけでなく、ケロイドや傷の痛み、かゆみなどを改善する対策を行う。

まずは手術時のトラブルを起こさせない事が重要であり、技術力をあげることも重要ですが、術後の痛み、吐き気、傷などの早期回復への対応も重要だと考えています。